

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

□会員交流会報告…………… 1P,2P □20周年記念 役員メッセージ…………… 3P
□日本福祉大学サービ斯拉ーニング…………… 3P □インフォメーション…………… 4P

会員交流会 ～在宅の暮らしを支える多職種連携のあり方を考える～

2019年5月30日、知多市市民活動センターにて通常総会を開催、正会員数56(団体26、個人30)うち出席38(委任状17名)を以て2018年度事業報告及び決算、役員選任、定款の変更についてご承認いただきましたことをご報告申し上げます。

さて、今年度の会員交流会は、日本福祉大学社会福祉学部教授藤井博之さんを迎え、在宅の暮らしを支える多職種連携についてご講義いただき、参加した39人とともに意見交換を行いました。なお、藤井先生の講演録は以下の通りです。

◆自己紹介

1981年から臨床医として現在も週1回の診療を続けています。病院内のチームワークだけでなく、介護や障害支援の



講師の藤井博之先生

NPO、役所との仕事を通じて、1990年頃から「多職種連携は簡単ではない」と思い、今に至るまで考えています。介護保険が始まった2000年には、在宅医療・介護の複合施設「地域ケア支援まちかどひろば」の開設に参加しました。今では「多職種連携」が研究テーマです。

◆ニッセイ財団特別委託研究事業「多職種研修プロジェクト」

この事業は、日本福祉大学前学長の二木立先生が代表者、白澤政和先生、大橋謙策先生がアドバイザー、日本福祉大学の教員が中心に研究体制をつくっており、私も幹事の一人です。

0～100歳のすべての人が安心して暮らせる地域づくり(地域共生社会)について13のプロジェクトが実際に地域で活動するアクションリサーチで研究を進めています。

多職種研修プロジェクトは、地域包括ケアにおける多職種連携と多職種研修のあり方を探ることが目的です。地域包括ケアが必要になった背景には、地域での生活上の課題が多問題化していることがあります。その上で、障害者支援、生活困窮者支援、すべての人たちの権利を擁護していく時に、立場や専門性や利害を超えて、どう連携、連帯するのか。そして、多職種連携の事前準備としての人材育成をどうしているのか。これらを明らかにすることです。私たちはまず、3月から知多5市5町の役場を回りました。在宅医療と在宅介護で働く人々・機関の連携推進事業、そこで取り組まれている研修事業について聞きました。これまでの調査では、例えば、認知症の早期支援あるいは高齢者の虐待防止でも、連携のための研修がされていて、さらに防災・減災支援でも多機関・多職種

の連携が必要だと意識され、取り組まれていることがわかってきました。

◆子ども虐待防止

私の自宅の近くなのですが、野田市で起こった虐待死事件について考えてみたいと思います。実は子ども虐待防止には、多職種・多機関が連携し、社会的なネットワークを強めることが必要な分野・課題です。

イギリスでは「ビクトリア・クリンビー事件」が社会を変えるきっかけとして有名です。これは2000年に起こった事件で、当時8歳だったビクトリアが叔母とその愛人の虐待により浴室で凍死したのです。この事件はイギリスで大きな社会問題になりました。問題点の一つは、虐待者だけではなく、担当したソーシャルワーカーも刑事訴追され、有罪判決を受けたことです。イギリス社会では、ソーシャルケアは医療と同等に社会的影響力を持っており、大きな衝撃でした。もう一つは、ソーシャルワーカーだけでなく、複数の警察や医療機関などが関わっていたにも拘らず、彼女の生命を救えなかったことが問われました。

その結果、社会のあらゆる機関について、どう行動を変えるべきかを提言した膨大な報告書が提出されました。このこともあって、イギリスでは2006年に医師、看護師、ソーシャルワーカー、その他20職種以上の対人援助の専門職の養成課程に、他の専門の人たちと一緒に勉強する機会である多職種連携教育(インター・プロフェッショナル教育)が制度化されました。ドラスティックな変化です。これに比べると、日本社会はどうなっているのでしょうか?0～100歳の地域共生社会は、当然ここまで視野に収める必要があります。

◆多職種連携プロジェクトのねらいと進捗

さて、このプロジェクトは在宅医療・介護連携推進事業の入り口である多職種研修について、すでに第一調査を昨年行い、3月には第二調査として5市5町へ伺いました。つまり実態調査を行ったところです。今後は、この結果を踏まえて(次頁へ)

愛知県下初のグッドガバナンス認証を取得しました!

ガバナンスを有効に保つ努力をしているとして6月21日に認証を受けました。JCNE(非営利組織評価センター)と連携し、8月8日非営利組織の第三者認証制度についての説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。



(前頁より)第三調査として7,8月に研修開発のワークショップをやるかと考えています。市町を超えて多職種研修についてのディスカッションの場としてワークショップを開催するアクションリサーチです。これらを通じて、0～100歳の地域共生社会を見通した多職種研修のあり方や方法について、腰を据えてじっくり作り上げていくようなチーム、場を築けないかと考えています。

これまでの調査では、5市5町でさまざまに多職種研修が取り組まれています。様々な課題も挙がりました。例えば、医師あるいは医療関係者の参加が少ないといった現状もあります。「この集まりに出てくると余計に先生が大変になっちゃってどうかしら」と、数の少ない在宅診療医に気遣う声も何か所かで聞きました。医師に限らず、訪問看護ステーションについても同様です。日程調整についても、いろんな人が参加するのは苦労が多いようです。また、研修テーマや講師の選定にも迷うところがあります。

一方で主に高齢者、介護担当者から「障害や子育て分野との情報共有が難しい」と言う声も聞きました。これは、既に0～100歳の地域共生社会を意識した市町があるのです。この辺りは、やはり知多半島は進んでいるなあと思いました。ほかに、関係者間の意思疎通、役割の相互理解、住民ニーズの把握や情報提供、啓発なども課題として挙がっていました。

多職種研修を企画推進する会議体の構成メンバーをみると、5市5町全てにおいて医師会と歯科医師会、薬剤師会が入っています。ケアマネージャー、訪問看護になるとやや数が減ります。地域包括支援センター、社会福祉協議会、保健所、NPOは半分以下です。生活支援コーディネーターが入っているところもあります。市町の間に通性と独自性がみられます。

多職種研修会を準備する会議体の構成員は8～28人、1年の開催頻度は2～9回です。多職種研修会そのものは、各市町で年に2～9回開催され、参加者は58～640人でした。合計すると、年間70回2,393人の多職種の人々が研修のために知多半島で集まっていることになります。

看取りやACPなど最近話題のテーマもあれば、薬剤師の活動、口腔ケア、摂食嚥下など個別のテーマに基づいた研修会も開かれています。研修会の方法は事例検討が多く、講義とグループワーク、ワールドカフェ方式も取り入れられています。また、交流を目的とした飲み会を年1回、研修後に設定しているところもありました。

企画の方法や資源としては、事業所や地域包括支援センターが事例を提供していました。病院の職員が多数参加することもあります。他に、国立長寿医療研究センター主催の研修会、半田保健所の主催する会議、東海市医師会や半田市医師会、知多郡医師会の取り組みが活用されていました。県医師会の事業の在宅医療・介護連携サポートセンターのコーディネーターが、各市町で活躍していました。これから、多様な課題を抱えながら一つ一つ乗り越えることが、多職種研修のテーマになるでしょう。

◆多職種連携の状況を評価する尺度

多職種連携がうまくいくと、自由自在な連携を生み、開かれた専門職を育て、援助に社会性をもたらすことで高い専

門性を鍛えるという効果があります。一方で、専門職のチーム間では、専門的な領域の裂け目ができ問題が起こることもあります。例えば医療事故です。あるいは、力の出し惜しみ。お互いをカバーしているのだから「うちはそこまでやなくていいでしょ」みたいな現象が起こることもあります。専門職がそれぞれ一所懸命働こうとすることで、場所や時間が重なってお互いの仕事が制約されることもあります。専門職間の衝突が起こり、それが構造化すると職種間にパワーゲームが生じます。例えば医師が高圧的になる、あるいは看護師集団が力を持ちすぎることもあり得るのです。

絶えず患者さんや利用者さんが入院・退院している、医療と介護施設の多職種連携では、絶えずチームの結成と解散が繰り返されています。例えば、病院では一人の入院患者を支援する医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアワーカー、PT、OT、あるいは担当の薬剤師のチームができる。その人が退院するとそのチームは一旦解散して、別の患者のチームとして集まるというわけです。病院、特に急性期ほど頻繁なチームの結成と解散の中に身を置きながらチームワークを行っています。さらに、各専門職は自分の独特の文化を持つため、多職種連携は異文化交流でもあります。

さらに、多職種連携は文脈に依存します。つまり、急性期と回復期、あるいは在宅ケアではチームの役割が変化し、それにつれて各職種の役割も変わっていきます。

私が最近行った研究に、職場における多職種連携の評価尺度があります。これは、病院の職員約1,300人から集まったアンケートの結果を統計分析した20項目の質問に4段階で答え、その合計点を見ます。「職場の連携状況はどうなっていますか？」という質問は、「あなたは連携のために必要な行動ができていますか？」という個人の働きや能力ではなく、働いている職場の連携状況を尋ねています。



熱心に聞き入るNPO、行政、病院関係者ら

◆多職種連携に大事な4つの共通理解と7つの意味

多職種連携をうまく機能させるためには、4つの共通理解が必要だと私たちは考えています。①自分たちは何ができて、何を大事にしているのか(自己理解)、②本人はどういう状態か、何ができて、何を大事にしているのか(当事者理解)、③他の職種は何を大事にしているか(他者理解)、④チームがおかれた状況、つまり社会経済的状態やいろんな制度の改定など(状況理解)の4つです。

また、多職種連携教育には7つの意義があるといわれています。①支援の質を改善、②利用者と提供者のニーズに焦点を当てること、③利用者と提供者が巻き込まれて仕事をしていくこと、④お互いからお互いを学ぶこと、⑤お互いの良心と貢献にリスペクトすること。その結果、⑥それぞれの専門的な実践も強化し、専門職としても力が出せる。そして、⑦支援者も専門職としての満足度を強めることができる。こうなるように多職種研修をやりましょうということです。(監修/藤井博之教授)

■日本福祉大学サービ斯拉ーニング

学生が地域住民と関わり、活動計画を実施する夏の5日間のNPOでの活動前にSLの意義と目的を確認し、学生の受入対応について団体間での情報を共有するため、7月3日知多市市民活動センターにて意見交換会を行った。活動先団体11人とSL担当教員3人、大学事務局3人の計17人が参加した。

前半は、今年4月に赴任された菊池遼先生(日本福祉大学社会福祉学部 助教)より、「学生とNPOが地域課題解決のための共通認識を持ち、学生が地域の一員として



3.11以降のひととの関係性の重要性を語る東北出身の菊池先生

何かをやらなくてはと思えるよう、活動の意味付けを問いつけることが重要」と話された。

後半の意見交換では「企画の進め方・任せ方等、学生の想いを聞き出すことが難しい」といった受入団体の声に対して、「具体的な話やヒントを与えることで、学生自身が気づくように導いて」と教員の山崎先生から助言をいただいた。また、岡本先生から「SLを継続して受け入れている理由は？」の問いかけに対して、自団体スタッフの成長につながっている、学生の変化を感じることができる、次世代育成のための順繰りだと思っている等の前向きな意見が多く寄せられた。最後に教員・学生・NPOの3者リフレクションを大切に決めていくことを共有した。(江端)

■20周年記念 役員メッセージ

今号と次号の2回にわたり、設立20周年を記念して、当法人役員祝賀メッセージを掲載させていただきます。(順不同)

「サポートちた」の基となる「ちた在宅ネット」から関わっていますと、やはり人材育成と情報交換が大切なキーと思います。各団体から講師を一人ずつ出して開催したヘルパー2級の講習会。アメリカのNPO視察、オランダ視察、日本国内の研修、フォーラムの開催等共に育ちあいました。

今、人手不足でどこの団体も大変と思いますが、地域共生社会の実現に向けて助け合い活動をおし進める取り組みが大切です。

居場所、認知症カフェ等沢山出来てきました。それらを継続出来る様、行政との連携等、中間支援組織の活躍を期待しております。高齢者、障がい者、子供、誰もが安心して暮らせるまちになる様、人材育成、情報交換をしながら実現しましょう。

監事 矢澤久子 (認N)ネットワーク大府 理事長

私は子どもたちと関わる一人として変えたいことがあります。それは自分の住んでいる地域に誇りをもてるようになることです。『サポートちた宣言』には「誰もが自分が望んでいる地域で」とありますが、子どもたちにとってこの知多半島が望んでいる地域になっているか、または「子どもたちにとっても望まれる地域になっているか」は疑問に感じます。

事実、知多半島は20歳以降の人口減少が顕著にみられます。人との繋がりがポケットの中に入る一つの機械で済

んでしまう世の中で、人との繋がりの希薄化や地域への愛着の薄れから、「住み慣れた地域」よりも「機能的な地域」を望んでいるように子どもたちの声から感じます。そんな中で、いかにして「ここで生きていきたい！」と思える地域を創っていくことができるかは、サポートちたをはじめ、多くの団体やみなさまの力を借りて、私もその一人として形にしていきたいと思っています。

理事 田中 嵩久(一社)アンビシャス・ネットワーク 代表理事

法人設立20周年、おめでとうございます。

同時に、「困ったときはおたがいさま」の地域福祉ネットワーク30年のお祝いでもあり、ここまで維持発展することができた地域のつながりは、まずもって現場の皆様の日常の積み重ねの上と、感謝に耐えません。

NPO同士のつながりを広げ、行政等他機関との協働、日本福祉大学との連携など、この20年で実現できた取り組みの多様性は、持続可能な地域づくりを推進するエネルギーに転換されるものと期待いたします。今後も知多地域の未来に向け、「あったらいいな」を実現する、多様な組織のご縁を結び続けることができますよう、お祈りいたします。

理事 岡本一美 日本福祉大学社会福祉学部 非常勤講師

20周年おめでとうございます。

私は17年前、ヘルパー2級養成講座をサポートちたで受講しNPOという言葉を知りました。その当時は40名の定員が満員の状態で、修了式にゆいの会の代表の「NPOの現場は無理をせず自分ができる範囲でお互い協力しあっている、仲間になりましょう」との言葉にひかれ福祉の現場に入りました。私のようにNPOの想いに惹かれ仲間になった多くの人々が各地に広がり活躍しています。

人材育成はもちろん、中間支援団体として各NPOが継続的に事業を行うための組織運営、財政、人材集め、広報などのマネジメント、また必要とする他の組織とのネットワーク作り、様々な制度の情報提供、そして社会基盤の整備、調査、研究、行政への提言など安心して暮らせるまちづくりのために長期的な役割を果たしていくことを期待しています。

理事 下村一美 (N)ゆいの会 代表理事

私が地域福祉サポートちたを知ったのは約16年前。障害福祉系NPOに勤務していた私は「障がいがあっても地域で生活していくためには私に何が出来るだろうか?」と、時に怒られながらも地域を走り回っていました。そんな時にふらっと事務所に来て下さって、私たちの話を笑顔で聞いて下さったのがサポートちたの方々でした。そのころから「NPOの活動っておもしろいな」って思うようになり、結婚・出産し、現場を離れても介護職員初任者研修の講師で10年余関わらせていただきながら、夫とともに2014年にNPOを立ち上げました。

地域課題に向き合うことって時にしんどいけれど、知多半島のネットワークの中で同じように頑張る仲間との繋がりが、私たちの人生の力になって来たんだと思います。

今年度から、理事というお役目をいただき、恐縮ではありますが、育てていただいた恩を返せるよう、頑張っていきたいと思っています。

理事 土肥りさ (N)Paka Paka 事務局長

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■ランが2つになりました

ランは、スペイン語で絆の意味。地域の皆さんとの絆を深めたくて始めた常設居場所が2つになりました。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください♪

- 地域の縁側 ラン・プラザ 火曜～金曜 9:00～16:30
※町内福祉施設のパン・コーヒー・ケーキを使っています。
 - ・モーニング 9:00～11:00 (9月14日からは土曜も！)
 - ・ボランチ(ボランティアさんの日替わりランチ)11:30～14:00(場所)スーパー「アイプラザ」内(東浦町石浜)
- 地域の縁側 グリーン・ラン 月曜～金曜 9:30～16:30
 - ・まかないシェフランチ 毎週火曜・木曜 11:30～13:30
 - ・フォーク酒場 8/2,10/4 18:30～20:30 エントリー募集中
 - ・夜カフェ 8/13・14,9/21,10/12 17:30～ 生ビール
 - ・え・ほんカフェ 8/9 19:00～20:30 (参加費 300円)(問合せ)(N)絆 ☎0562-83-7563

■第2回 あかり♡いちば

「あかり♡いちば」は、出会いと販売の両方が楽しめる地域交流のミニマルシェ♪

〈内容〉

- ・さをり織りの作品、小物
- ・染め物、オリジナルTシャツ
- ・ハンドメイド小物、アクセサリ、スタイ、マスク
- ・手作り作品、フリーマーケット
- ・地域の人気店のグルメ
- ・家庭菜園の野菜・果物

〈日時〉2019年7月20日(土)10:00～13:00

〈場所〉「なごみ舎」 NPO法人あかり本部事務所1階

〈主催〉(N)あかり ☎0569-35-4189

その他、街かどサロンきらりでは、7月27日(土)10:00～12:00、夏のきらり教室「ねんどであそぼ」(参加費800円)の参加者募集中。大人も参加できる陶芸教室です♪

■知多半島の地産地消商品を移動販売しています

このたび準会員登録させて頂きました(株)愛和物産です。移動販売車が施設、コミュニティに訪問させて頂き、知多半島の地産地消商品(採れたての地元野菜を中心にはんぺい、豆腐、漬物、佃煮、海苔、魚の干物、そうめん等の乾物)を紹介・販売しています。

施設、コミュニティで移動販売を行うことにより、高齢者の皆様に歩いて訪問して頂き、いろいろな人とお話をしてもらい、そして、今日の食事の献立を考えてもらう。体、頭を使うことにより、健康寿命を延ばしてもらう。特に最近の高齢者の車運転の事故の防止や認知症の発症を遅らせることにつながると考えております。無理なく行くことが出来る施設、コミュニティに足を運んでもらえることの動機付け、一助になればという思いです。また、施設・コミュニティ側としても多くの方々の訪問は効率の良い運営や積極的な催しの開催につながると考えられます。

現状では、知多半島地域内にて活動を行っております。土・日曜日のイベント出店や定期的出店などご相談に応じますので、下記連絡先までお問合せください。

〈問合せ〉(株)愛和物産 ☎090-7030-7543 担当 渡邊

■長期ひきこもりの方の訪問サポート始めました

親が80歳子どもが50歳という8050問題に何とか取り組もうと訪問サポートを始めました。

支援内容は、保護者の相談から始め、ハガキを出したり、外で趣味的なことに一緒に取り組んだり1人1人工夫をしてアプローチします。目に見える成果はすぐには得られませんが、確実に社会参加の一助になると確信しています。

訪問1回につき5000円+交通費(25円/km)です(※WAM助成金事業)。訪問対象の方は何歳でも構いませんが、本人と保護者間でコミュニケーションが少ない状態ですと時間がかかりすぎて費用負担が大きくなります。そこで、まずは可能性を当方で判断させていただきます。

その人がその人らしく地域社会の中に役割や居場所が見つかることを願い頑張ります。皆様よろしく願いいたします。

〈場所〉知多市つつじが丘4丁目29-1

〈問合せ〉(一社)サポートネットゆっか 代表理事 井上朋子

☎090-5000-0390 メール yucca@ma.medias.ne.jp

☆:~:~:☆.. °.☆:* ~*:° .. ☆.. ° ☆:~:~:☆.. ☆:~:~:☆.. ☆:~:~:☆..

新会員紹介

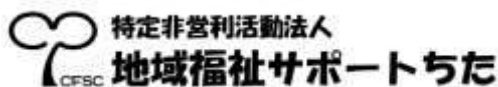
ご入会ありがとうございます (2019/7/16現在)

【準/団体】株式会社 愛和物産 様

【準/個人】神田 健司 様

【準/個人】藤井 博之 様

.. :° ☆:~:~:☆.. °.☆:* ~*:° .. ☆.. ° ☆:~:~:☆.. ☆:~:~:☆.. ☆:~:~:☆..



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた

HP:cfsc.sunnyday.jp/

FB:facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda

HP:cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/

FB:facebook.com/Adacoda.cafe/